



八万点の国宝を収蔵する神宝館 (辺津宮)



神宝館外観



宗 像



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

平成二十七年を振り返って

本年は七月二十八日に、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界文化遺産の国内推薦候補に決定され、順調に進めば二年後の平成二十九年夏に正式に世界遺産に登録されることとなる。

これによって沖ノ島の禁忌等は守れるのかとの心配の向きもあるが、宗像の遺産は「守るべきもの(保護)」と「開示すべきもの」に分けられており、沖ノ島は守るべきものの対象となり、今後はより厳格に守られることとなる。一方、中津宮、辺津宮、新原・奴山古墳群は開示すべきものとされ、特に沖ノ島出土の国宝八万点が展示される神宝館(辺津宮境内)においては、宗像の深い信仰や歴史を感じることができるため、今後は世界遺産の発信拠点になっていくと考えられる。

九月十一日には、平成二十九年度「第三十七回全国豊かな海づくり大会」の開催地が宗像市に決定した。この大会は全国植樹祭、国民体育大会とともに「三大行啓」の一つとされ、天皇皇后両陛下の行幸啓がなされることとなっている。これがもし実現すれば、宗像有史以来のこととなる上に、古来の先人たちの願いが叶うことにもつながる。

昨年の辺津宮本殿遷座祭を終え、平成ノ大造営が進められて行く中、世界遺産国内候補、豊かな海づくり大会が決まり、あらためて宗像大神の御神威の高揚を実感すると共に、職員一同、さらなる神明奉仕に努めるべく、決意を新たにす次第である。

余滴

月は、人々が夢見る存在として語られてきた。月面旅行の夢がアメリカのアポロ計画につながる。

また、今年の仲秋の名月はスーパームーンと重なり注目を集めた事も記憶に新しい▼今年の当社献茶祭は、出光美術館所蔵の仙厓の掛軸「指月布袋図」が展覧された。見る人をおもわず微笑ませる何とも言えないタッチで描かれ、画賛には、「あの月が落ちたらおれか拾ひます」とあり洒落が効いている。布袋様でも月にあこがれるとされたのだ▼出光佐三翁が仙厓をこよなく愛し長年四方八方に手を尽くし収集されたという。その魅力は、絶妙な絵の筆遣いと共にこのセンスの良さに理由があるのだらう▼来年は申年だが猿でも月を夢見る。禅画で「猿喉捕月」という画題がある。岸辺の木々の枝につかまる手長猿が水面に映る月に手を伸ばす様子を描いたものである。月を捕ろうとする事自体が無謀な望みであるところから「身の丈を知る」という意だそうである▼我が国は、戦後七十年を経て、自衛隊のあり方を変えたと宣言した第二次安倍政権も三年目を迎えようとしている。来年は大きな転換点とされる大切な年である。この大切な年を「猿喉捕月」の年などこの誇りを受けぬ様、お願いしたい。(佐)

神具・装束・授与品



装束店
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

授与品店
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目-20 電話(0940)32-2567

第45回 西日本菊花大会 閉幕

宗像の秋を彩る菊の祭典、二日まで行われ、境内には九州各県、山口の菊愛好家約一〇〇名から、菊の花約三千鉢が出品され、七五三他が、十一月一日から二十



多くの観菊者で賑わった菊花展

の参拝者を魅了した。

十一月五日には、福岡県農業総合試験場資源活用研究センター・苗木・花き部々長松野孝敏氏を審査長として、厳しい出品基準・審査基準に則り厳正に審査を行い各賞を決定し、同日には、清明殿にて表彰式が開催され、賞状・トロフィー

が各受賞者等に授与された。本年は大雨や台風が多く、菊作りにとって決して良い条件では無いものの、会員皆さんの努力により色彩豊かな見事な菊花が境内に出揃い、多くの参拝者を楽しませ、



七五三祈願の様子

期間中の境内では、「菊みくじ」や勅使館を特別開放した「茶房」、観光協会による「いっぷく茶屋」、さらには観光ボランティアの皆様による境内案内なども行われた。また、本年は会員皆様の協力により、辺津宮本殿・拜殿を模した遷座祭奉祝特別花壇なども加わり参拝者等の写真撮影場所として賑わっていた。

本大会開催にあたり、ハウスの設営・菊花搬入出等の奉仕活動に御協力頂きました、宗像市商工会青年部、(公社)宗像青

各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

内閣総理大臣賞	和田 太義
農林水産大臣賞	保田 直宏
文部科学大臣賞	福嶋 廣之
総務大臣賞	船越 順一
法務大臣賞	吉田 睦雄
外務大臣賞	時田 義光
財務大臣賞	古原 正則
厚生労働大臣賞	関本 和代
経済産業大臣賞	東 伊佐義
国土交通大臣賞	城本 勝行
環境大臣賞	御田 良知
防衛大臣賞	豊原 勇
内閣官房長官賞	土居 幸四郎
衆議院議員 宮内秀樹賞	中嶋 善隆
宗像大社宮司賞	安武

※以下、受賞者につきましては紙面の都合上割愛させていただきます。



多くの人で賑わう遷座祭奉祝花壇



恒例の儀式殿前の菊人形

年会議所、運送会社外多数の皆様、誌面を借りますに、厚く御礼申し上げます。

沖・中両宮秋季大祭齋行

去る十月二十六・二十七日の両日に亘り、筑前大島に於いて沖津宮・中津宮の秋季大祭が厳粛且つ盛大に齋行された。

二十六日、早朝より晴天に恵まれ、沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、同敬神婦人部の皆様のご奉仕により社殿や境内の装飾、また翌日の天気予報が雨の為、奉賛

会役員の協議により演芸大会



浦安舞奉奏

会は大島小中学校の多目的ホールで開催することが決定され、会場設営等の準備が進められた。午後四時、宵宮祭に先立ち地主祭を齋行。同五時、沖・中両宮の宵宮祭が沖津宮遙拝所と中津宮本殿に於いて執り行われた。

翌二十七日、早朝より降り始めた雨は止み、厚い雲に覆われた空の下、沖津宮遙拝所にて沖津宮秋季大祭、大島の最高峰御嶽山に鎮座する御嶽神社にて秋祭、宮崎地区で厳島神社祭が齋行され、神職が各齋場に分かれ其々滞り無く執り行われた。



氏子奉幣使 遠藤利男氏

た。

午前十一時、島民を始め島外よりの篤信者多数参列のもと、中津宮秋季大祭が齋行された。葦津宮司が国家・皇室の弥栄を祈念する祝詞を奏上、次に島内の氏子を代表し、奉幣使として遠藤利男氏が奉幣詞を奏上された。続いて巫女が神楽「浦安の舞」を奉奏し、祭典は厳粛裡に齋行された。

午後一時三十分、恒例の「奉納演芸大会」が大島小中学校で開催され、舞踊・ダンス・カラオケ等が披露され、その賑やかな雰囲気に入参り参加もあり、笑いと歓喜の声に包まれた。

大祭準備に連日御奉仕頂きました沖・中両宮奉賛会(会長 沖西敏明氏)、同翼賛会(会長 遠藤三保氏)、同敬神婦人部(部長 河辺恒子氏)を始め、ご協力頂きました島内氏子の皆様に、心より御礼申し上げます。

第23回 氏子会研修旅行

戦後七十年、被爆地広島へ

去る、十月二十九日、三十一日恒例の第二十三回氏子会研修旅行が行われ、置船会長以下十七名が参加し行われた。

爆資料館を見学し一行は原爆の悲惨さを改めて感じた。翌日は大和ミュージアム、つつのくじら館、その後江田島にて海上自衛隊第1術科学校(旧海軍兵学校跡地)を見学した、特に

今回の研修旅行は戦後七十年の節目の年を迎えるに当たり、被爆地である広島県を訪ねる行程となった。

江田島の教育参考館では、卒業生の遺影・遺品等が展示されており、胸に迫るものがあった。

二十九日、一行は広島護国神社を正式参拝し、日清戦争の際に二二五日だけ広島県が首都となった、広島大本営跡地、原爆投下の際に第一報を伝えた中国軍官区司令部防空壕などをご案内頂



厳島神社

いた、その後平和公園と原

拝し寝殿造りを応用した優雅な社殿をご案内頂いた。今回の研修旅行は広島県の歴史と戦争の悲しみを改めて感じる有意義なものになり一行は帰路についた。

秋の神賑行事

神威は敬心によって増す

無外流 鵬玉会 奉納演武

十一月六日、辺津宮にて、無外流鵬玉会による演武が行われた。

無外流は、江戸時代前期の剣客・辻月丹(つじ・げったん)によって興された剣術の流派であり、大名・旗本に多く学ばれた。池波正太郎の時代小説「剣客商売」の主人公・秋山小兵衛も当流である。



第40回 清香吟社奉納吟詠大会

十一月三日(火)、秋季恒例の清香吟社宝山会による秋季奉納吟詠大会が開催された。

午前九時三十分、宝山会々

長をはじめ、県内外より会員約四十名が当大社へ参集。清明殿にて会員各々が順次日頃鍛えた自慢の喉で吟詠が披露された。



午前十一時、本殿にて正式参拝を執り行い、献吟並び会員一同による「吟道」の台吟が奉

午後一時には日程の全てを終え、一同バスにて直会会場へと移動した。

納された。菊花展で彩られた境内に朗々と響き渡ると、多くの参拝者とその美声に聴き入り暫し足を止め深い感銘を受ける様子が見られた。

献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開催され、山口博山氏へ葦津禰宜より永年斯道の興隆に寄与された方に感謝状と記念品が贈呈された。

第七回 博陽吟道会秋季奉納吟詠大会

十一月六日、博陽吟道会奉納による吟詠大会(協賛・吟道清吟会)が行われ、本殿にて博陽吟道会・吟道清吟会両会員による台吟が奉納された。清明殿での表彰式では博陽吟道会の小笠原浩山氏・松岡龍月氏、吟道清吟会の後川恍山氏に賞状と記念品が贈呈された。

十一月十三日、舞踊家浅野瑞穂氏が中津宮・沖津宮遙拝所の二ヶ所で舞を奉納された。



舞踊家 浅野瑞穂氏「天女の舞」奉納

十一月十三日、舞踊家浅野瑞穂氏が中津宮・沖津宮遙拝所の二ヶ所で舞を奉納された。

氏は、大学在学中に中国古典・民族舞踊を学び卒業後は、北京公演を始め数々の舞踊公演で活躍された。その後、我国の古典・民俗芸能に出会い、独自の舞を確立され、伊勢神宮・出雲大社・醍醐寺・三井寺などの神社仏閣に舞を奉納されると共に、国内外で多くの公演を行われている。

氏は、大学在学中に中国古典・民族舞踊を学び卒業後は、北京公演を始め数々の舞踊公演で活躍された。その後、我国の古典・民俗芸能に出会い、独自の舞を確立され、伊勢神宮・出雲大社・醍醐寺・三井寺などの神社仏閣に舞を奉納されると共に、国内外で多くの公演を行われている。

当日あいにくの天候ではあったが、奉納された舞は、指先にまで想いのせたと思うほどの繊細さを見せ、独自の世界観が感じられた。



除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の「罪」・「穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年を締めくくる祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

◆日時 12月31日(木)午後3時～

◆場所 神門前



尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに『人形』(男=白、女=赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、『車型』にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。

時満ちて道ひらく

沖ノ島崩壊法面復旧工事完了

造営日記 ⑳

沖ノ島は昨年八月、集中豪雨により法面の一部が崩壊し、参道にまで土砂が流れ込み、応急処置にて現在に至っていた。

この度の復旧工事にて、法面は植生マットや麻土の積みみで今後の土砂流出を防ぎ、参道は応急処置では取り除けなかつた土砂を処理し以前の広さに戻った。

本工事は景観に配慮した仕様としており、植生マットは自生している島の植物で次第に覆われる予定である。



▲被災後の参道



▲工事完了後の法面



▲工事完了後の参道

第3回 信州りんご奉納式 長野県松本市産りんご約500個が奉納

二〇一五ミス松本も参拝。境内の参拝者にりんごが配られる

十一月一日、長野県松本市のJA全農長野、松本農業開発センター、松本観光コンベンション協会等信州りんごに携わる諸団体より、本年もりんご約五百個が奉納され、式典後には観菊に訪れた参拝者にも振舞われた。

この奉納は平成二十四年、「山のまち」松本と「海のまち」宗像で交流を深めようと始められ、今年で三年目となる。

当日は昨年引き続き松本市のゆるキャラ「アルプちゃん」に、本年初めて二〇一五ミス松本の浅野夏美さんも参拝され、華やかな雰囲気の中、本殿で関係者から当大社巫女にりんごを手渡す奉納式が斎行され、神前にりんごが奉納された。

奉納式後には章津宮司と谷井博美宗像市長が、農産物



十一月一日、長野県松本市のJA全農長野、松本農業開発センター、松本観光コンベンション協会等信州りんごに携わる諸団体より、本年もりんご約五百個が奉納され、式典後には観菊に訪れた参拝者にも振舞われた。

式典後、参拝者にりんごが振舞われると長蛇の列ができ、りんごを受け取ると品種を尋ねたり、アルプちゃんや記念撮影を行うなどの賑わいを見せ、本年のりんご奉納を終えた。

奉納されたりんごは、この季節の品種の「シナノスイート」「シナノゴールド」の二種類。これから主力の「サンふじ」の出荷が増え、「道の駅むなかた」にも並ぶとのことであった。

昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和46年	昭和40年	昭和37年	昭和32年	昭和31年	昭和30年	昭和28年	昭和22年	昭和19年	昭和13年	昭和10年	昭和4年	昭和元年	生まれ年
前厄(男)	大厄(男)	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
40	41	42	45	51	54	59	60	61	63	69	72	78	81	87	90	満年齢
平成22年	平成19年	平成13年	平成11年	平成10年	平成9年	平成5年	平成4年	平成3年	平成元年	昭和60年	昭和59年	昭和58年	昭和56年	昭和55年	昭和54年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	暗剣殺	後厄(女)	八方塞	大厄(女)	厄
6	9	15	17	18	19	23	24	25	27	31	32	33	35	36	37	満年齢

平成28年 厄年一覽表

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習でありますが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしてください。

八方塞 はっほうふさがり
陰陽道でどの方向に向かって事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめ方は要注意と言われています。

暗剣殺 あんけんざつ
「九星術」でその年の五黄土星と相對する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

交通安全 宗像大社 初詣 交通規制のお知らせ

- 期間**
- 平成27年12月31日(木)
午後10時から
平成28年1月1日(金)
午後8時まで
 - 平成28年1月2日(土)～1月4日(月)
午前9時から午後8時まで
- ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

凡例

	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場



※主要地点から宗像大社までの距離

- ★東郷橋交差点から 4.1km
- ★日ノ里北口交差点から 4.1km
- ★神湊交差点から 2.0km
- ★瀬戸交差点から 3.3km

■公共交通機関をご利用ください

(続)

浜の寄物

305

いしただし



昭和二十年三月二十七日に木屋瀬に墜落したB29は、爆撃に苦しめられていた市民は快哉を叫んだ。撃墜された巨大機の残骸を見るため多くの見物人が押しかけた。憎いB29である。

昭和二十年三月二十七日たら大惨事となったであろう。新聞の見出しは「遠賀川が三途の川」とあり墜落現場を取材している。

B29が墜落したのは、植木と木屋瀬とをむすぶ旧中島橋(全長四一〇m)下流の河川敷であった。橋の上流側には海軍の滑走路がつくられてあり、そこを指した

「B29は右旋回したかと思う間もなく、再び反転、遠賀川の砂原、轟然と真逆様に機首を突込んだ。深さ三m、直径五mばかりの大穴が四個砂原に並んでいる。その穴の内がまだぶすぶすとくすぶつていた。機体は木っ端微塵に砕け散っているだけだ。B29一機が二千数百万円を食う。

牛島英俊氏は目撃者から話を聞き取っている。幸い河川敷で民家がなく、密集地であっ



高射砲が直撃



2015.11.4 飛行機雲

B29の巨体はどこを捜してもない。あまりにも哀れなB29の最期だ。穴のすぐ傍に一名、それから少し上流にも一名、乗員の死体が真黒に焦げて河原の砂に横たはっていた。」

一夜明けた中島橋周辺は墜落機を見ようと人々が押し寄せて大混雑した。「原サツ子は中島橋の上から見たが、河川敷が道を作ったように削られていて、その先の飛行機の残骸は西向きのように見えた。野口セツ子も現場に行つたが人ばかりで橋は通れず、立入り禁止の綱が張つてある堤防の上から飛行機の残骸を見た。柴田喜樹は宮田町大隈から父につれられ8kmの道を歩いて見に行つた。橋の上が大混雑だったこ

テレビ放送のご案内

TBS系列28局ネット 全国放送 12月13日(日)15時30分〜16時54分
〔仮〕「出光佐三と宗像大社」(タイトル未定)
芥川賞作家の又吉直樹氏、直木賞作家の西加奈子さんが、宗像三宮を参拝します。

お知らせ

12月1日より辺津宮神門(本殿前の門)、開門が午前6時、閉門は午後5時に変更致します。ご理解のほど宜しくお願い致します。

とだけが記憶にあるという」前後するが昭和十九年八月二十日の野辺機の体当りで二機のB29が墜落したが、一機の墜落場所は「中間市史」に石井徴二郎氏の日記が抜粋されている。「二十一日午前九時上津役(榊木姫様前山中)に撃墜せられし敵機を見物に行く、榊木姫山中に墜落せし敵機体散乱、見物人は幾万人も陸続として続く」残骸を見て人々は少し鬱憤が晴れた。



さて先月の十月二十四日のBSでメンフィス・ベル(一九九〇、英国映画)があつていた。四十二年、イギリスに基地を置く米爆撃機B17、その一機の機名がメンフィス・ベル(勝利の女神)は二十四回出撃、今回は最終出撃となる。十人のクルーは今日の無事を祈つて最後の爆撃に出撃する。爆撃地は独ブレームンの工場地帯である。ドイツに入ると独戦闘機の攻撃、つづいてブレームン上空になると、高射砲の砲撃を受ける。雲の間をぬって爆弾の雨を降らす。高射砲の炸裂、激しい震動、爆弾を投下する側の恐怖、地上は悲惨な地獄である。無事に帰るか、銃弾や砲弾片を受け機内は血の海だ。基地近くでは車輪がでない。胴体着陸を皆覚悟、幸い出輪して基地にたどり着く(丁度原稿を書いていたので参考となった。)

第六五二回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 宮田 山本 静子
畑のへり一株大きな草はこれたしか「馬芹」辞書でも見づく
歌には意味の他に韻律の魅力があるが、この歌は歌謡の
ようなりズムが楽しい。結句は「辞書で見つける」としては。

北九州市 八幡西区 豊田ミツ子
辣蕪漬のおいしかりしが歯をぬかれ眞実生きし顔昏みきぬ
最近までは丈夫だった歯を失った悲しみの歌。(辣蕪
を美味しく食べいし歯をぬかれ鏡のわが顔昏くなり
たり)としてみた。歯を失った残念さに集中を。

宗像市 多禮 早川 祥三
鯛焼で相性みると言う君に頭をかぶるわたし理工科
鯛焼きの食べ方で相性を見る発想が面白いが、結句で
はぐらかされた感じがするのが惜しい。例えば三句以
下「言う君は尾にかぶりつくわれは頭を」などとしては。

福津市 若木台 山崎 公俊
八十神を祭り富貴を冀ふなく厄除祈りき倭の遠の祖
調べが良く、共感できる歌。古代の日本人は自然に神
を見出し、つましく平穩を願っていたのだろうか、
私も斯くありたいと思う。

福津市 中央 池浦千鶴子
秋日和彼岸花咲く土手の上幼きころの友思い出す
彼岸花は懐かしい感じがする花だ、作者にもそうなの
だろう。四・結句は例えば「一緒にままごとせし友を
思う」などとしても良い。

宗像市 池田 森 龍子
木犀の盛りに夫逝きて二十五年香り変わらず庭を浮遊す
木犀の香りに悲しい思い出を持つ作者。しかしその匂いは今で
は懐かしい夫君の思い出そのものなのだ。結句は「庭に匂えり」。

宗像市 大島 杉田 禮子
御座船を守りて進む船団の旗玄海の荒波に舞う
みあれ祭の海上パレードが大きな景で詠まれている。
旗にもう一步踏み込んだ描写があると更に良くなる。

宗像市 田久 巻 桔梗
掌をたてて耳求めくる幼児の背に母親は腕まはしゆく
仲の良い親子の情景。二句の「耳求めくる」がよく分か
らないので、表現にもう一工夫を。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
我動く故に我あり自らつくれし目当生きる傘寿
傘寿を迎え益々意気盛んな作者。上の句で宣言し、下の
句で自らの目標を持って生きると補足されている。三
句以下を「自らに目標つくり生きる傘寿」としたい。

◆選者詠

ひと房のバナナを剥きて冷凍ずたしかな明日のあるを信じて
蜜いろの秋陽浴みつつひひく造花につける一年のちり

俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一
陽高く稲穂稔りて吾笑顔
宗像市 多禮 早川 祥三
やまとへのシルクロードや月の道

古式祭の御案内

八百年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」
が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。
◆日時 12月13日(日)
◆祭典 午前6時〜
◆祭場 宗像大社本殿
◆御座 午前6時30分〜一番座
(一番座50名ずつ、五番座まで)
◆会場 宗像大社清明殿
◆御座料 1人1,000円
※御座券は当日午前6時〜販売致します。
(例年午前5時30分位から多くの方が
並び始めます。)



12月祭事暦

Table with 2 columns: Date and Event Name. Includes 15th (Monthly Festival), 13th (Ancient Festival), 19th (Matsunoshe Shrine Festival), 23rd (Tenme Festival), 31st (New Year Festival).

編集後記

菊花展や神賑行事、
忙しい十一月もあっ
という間に過ぎ、気がつけば師走、一
年過ぎるのは早いなと実感しており
ます▼振り返れば、本年は世界遺産国
内推薦候補に決定するなど、広報課
として取材等、本当に多くの方々との
出会いがあり、多々勉強させて頂
きました。二年後の世界遺産本登録
に向けてまだまだ取材が増えて行く
ようです。神社神道が連続とつない
できた信仰、日本人の心をしっかりと伝
えていけるよう努めて行きたいと思
います▼皆様が平穩無事に年を迎え
られる事をお祈り致しております。
どうぞ良いお年をお迎え下さい。(鈴)

発行所
宗像大社社務所・宗像会

住所 千八二一三三〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話 (094) 062-1331 (代)
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円